

子どもの水の事故を防ごう

7月25日は「世界溺水防止デー」

気温の上昇とともに水に触れる機会が増える時期となりました。家庭内外における水の事故のリスクも高まります。子どもたちの安全を守るための予防ポイントをご確認ください。

鼻と口を覆うだけの水があればおぼれる可能性があります



子どもは静かにおぼれます

子どもは頭が重く、筋力も未発達なため、バランスを崩しやすいです。また何が起きているかをとっさに判断できず、顔をあげるなど危険を回避する行動がとれません。

人間はおぼれかけると声を出すよりも呼吸を優先するため、「助けて」と叫ぶ余裕がありません。また、水を飲んでしまうとのどがふさがり、声を出せません。

水の事故はすぐそばに！～事故予防のポイント～

【浴室】



- ・浴室には鍵をかけ、お湯は抜きましょう
- ・おとなが髪を洗っている間は子どもも洗い場にいるようにしましょう
- ・入浴時に浮き輪は使わないようにしましょう
- ・子どもだけで入浴せず大人も一緒に入りましょう

【洗濯機】



・洗濯機の中をのぞきこみ転落することもあるので、踏み台などは置かないようにしましょう。また、ふたもチャイルドロックをかけ、開けられないようにしましょう。

【トイレ】



- ・トイレの便器内には常時水がたまっています。便器をのぞき込んで、子どもが誤って落ちてしまわないよう常に便器の蓋を閉じておきましょう。

ビニールプール・バケツ・たらい



- ・遊んでいるときは子どもから目を離さないようにしましょう
- ・使用后プールの水はすぐに抜きましょう



- ・バケツやたらいには水をためたままにしないようにしましょう

レジャー

＊体調が優れない場合は水遊びを見合わせましょう

＊子どもに水辺で遊ぶ際のルールを教えましょう(大人から離れない など)



- ・ライフジャケットを着用しましょう



- ・川の急な増水などに備え、事前に天候を確認しましょう

万が一、おぼれてしまった場合

～対応方法のポイント～

まず

水中から引き上げ安全な場所で寝かせましょう

泣かずに
ぐったり

名前を呼んだり
軽くたたいて反応をみましょう

反応が
ある

水をはかせる目的で
軽く背中をたたきましょう

反応が
ない

救急車を呼んで
すぐに心肺蘇生を行いましょう



おぼれた場合は
大丈夫そうに見えても、医療機関を受診しましょう

参考・引用文献:子ども家庭庁 HP、日本小児科学会 HP

「おおきなあれ（保育園の保健だより）バックナンバー」は
こちらからご覧いただけます

